

研究タイトル：

文化触変の視点からみる東アジアの近代化



氏名： 閻 秋君 / YAN Qiujun E-mail: yanqj196@sendai-nct.ac.jp

職名： 特命助教 学位： 博士(国際文化)

所属学会・協会： 日本国際文化学会, 日本東アジア実学研究会, 中国文化学会

研究分野： 歴史学

キーワード： 漢学者, 文化触変, 東アジアの近代化, 日中全人教育

技術相談
提供可能技術：
・歴史学の基礎知識
・歴史資料の読解
・日本語教育

研究内容：

■研究内容

- ・文明開化における漢学者の役割の解明
- ・国際文化学的視点からみた東アジアの人的交流の解明
- ・東アジア近代化の多様性に関する基礎的研究
- ・日中の全人教育思想

■研究シーズ

私は「東アジアの近代化の多様性」という研究ビジョンを持ち、それを解明するために、明治初期の漢学者・岡千仞（おか せんじん1833～1914）と、その周辺の人物をケース・スタディとして取り上げ、歴史学と思想史を横断する研究に取り組みました。具体的には、(1)明治初期の漢学者による洋書翻訳、(2)「文化運搬者」としての漢学者の清国渡航、(3)漢学者の抱く自他認識を明らかにしました。その主な研究成果として後掲の論文①～⑤などがあります。

現在、私は東アジアの近代化における文化触変(Acculturation)の事例研究の一環として、東アジアの地域社会が鉄道という外来文化に接することで、どのような拒絶を経て鉄道を受容するようになったのかを考察しています。これにより、新しい技術は如何に地域住民に受容され、地域の生活文化と共生していくのかを解明したいと考えています。

また私は、1920～1930年代の日本と中国において展開された全人教育に関心を持っています。それぞれの教育理論を比較検討し、相互の影響関係も確認したいと考えています。

■関連論文

- ①「清仏戦争期における日本人の清国渡航に関する一考察」(『国際文化研究』29, 2023年)
- ②「1870年代の日本におけるワシントンの人間像の一考察—岡千仞の『米利堅志』を中心に—」(『年報日本思想史』19, 2020年)
- ③「清仏戦争期における日中近代化の相違性の一考察—清国紀行文『観光紀遊』の鉄道建設論を手がかりに—」(『自然と実学』5, 2020年)
- ④「明治初期の日本における米国史の受容について—岡千仞の『米利堅志』を中心に—」(『中国文化』77, 2019年)
- ⑤「琉球の帰属問題をめぐる岡千仞の認識」(『国際文化研究』24, 2018年)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)
